

(平成20年4月分)

部 門	市況の概要
野 菜	4月期の野菜の入荷状況は、生育期である2月から3月の天候不順によって、生育不良や品質低下が見られた品目があるほか、降雨の影響で作業ができなかったために入荷が不安定となる品目もあった。施設野菜では、これまで加温用重油の高騰から入荷量が減少していたが、4月に入り気温が上昇すると作柄は回復し、多くの品目で前年の入荷量を上回った。葉物類や根菜類では天候によって特に入荷が大きく左右されたものの、全体の入荷量としては前年並みとなった。 価格は、不安定な入荷状況から乱高下が激しく、品質による価格差も大きかったが、全体としては前年同期を4%上回った。 品目別には、キャベツ、たけのこが入荷前年並みの単価安、レタス、ナス、生しいたけが入荷増の単価安となり、西洋にんじん、ハウレンソウ、たまねぎ、ばれいしょは入荷減の単価高で推移した。さらに、白菜は入荷増の単価高であった。 根菜類は、入荷が前年並みで、価格は12%高となった。 葉菜類は、入荷は7%増加し、価格は前年並みであった。 果菜類は、入荷は前年並みで、価格も前年並みであった。 土物類は、入荷が9%減少し、価格は14%高となった。
果 実	4月期の果実の入荷状況は、重油価格の高騰による冬季の加温抑制からメロン類やスイカ等で入荷の減少が見られたものの、いちごは作柄良好で大玉果中心の入荷となり、全体の入荷量は前年同期を8%上回った。 価格は、入荷減となった品目でも需要の低迷から単価はあまり上がらず、前年同期を9%下回った。 品目別には、ふじりんごが入荷増の単価安で推移し、甘夏柑、アムスメロンは、入荷量、価格ともに前年を下回った。 柑橘類は、入荷が30%増加し、価格は32%安となった。 りんご類は、入荷が前年並みで、価格は10%安となった。 いちご類は、入荷が7%増加し、価格は前年並みとなった。 メロン類は、入荷が11%減少し、価格は4%高となった。 スイカ類は、入荷が17%減少し、価格は5%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根 西洋人参 たけのこ	長崎県，千葉県を中心とする入荷。各産地ともに2月の低温によって生育が少し遅れていたものの，中央市場の集散機能が発揮され，入荷量は前年並みとなった。 価格は，2月の低温の影響で品質が若干劣り，品薄状況の中でも前年並みに留まった。 徳島県を中心に，長崎県からの入荷。生育期の天候不良によって収穫量が減少したことから，入荷量は前年同期を6％下回った。 価格は，全国的な品薄状況によって高値推移し，前年同期を83％上回った。 京都府内を中心とする入荷。今年は表年であることから豊作が期待されたものの，切り上がりは意外に早く，結果的に入荷量は前年並みとなった。 価格は，需要の低い太物中心の入荷であったことから業務関係筋での荷動きも悪く，前年同期を8％下回った
【葉菜類】 はくさい キャベツ ほうれんそう レタス	茨城県，九州地方を中心に，和歌山県，岡山県からの入荷。2月から3月の低温，早魃で生育がやや遅れていたが，4月には安定した入荷となり，入荷量は前年同期を21％上回った。 価格は，入荷増ながら業務，加工筋での引き合いが強く，前年同期を35％上回った。 愛知県，和歌山県，兵庫県を中心に，大阪府，茨城県からの入荷。各産地ともに雨の影響で不安定な入荷状況となったが，全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は，不安定な入荷状況から変動が激しく，結果として前年同期を8％下回った。 徳島県，岐阜県を中心に入荷。上旬の主産地である徳島県は雨の影響で切り上がりが早く，後続産地の岐阜県では朝晩の冷え込みによる生育不良で入荷が遅れ，前年同期を22％下回る入荷量となった。 価格は，品薄状態から高値で推移し，前年同期を23％上回った。 兵庫県，徳島県を中心に，茨城県，九州地方からの入荷。各産地ともに4月の降雨で作業がやや遅れていたことから大玉傾向の入荷となり，入荷量は前年同期を15％上回った。 価格は，入荷増に加えて需要の低い大玉傾向の入荷であったことから，前年同期を27％下回る結果となった。

【果菜類】 きゅうり	宮崎県を中心に、滋賀県からの入荷。2月から3月の低温と日照不足で生育作柄ともに悪く、下旬には天候とともに入荷は増加したものの、全体の入荷量としては前年同期を11%下回った。 価格は、上旬の高値から入荷量の増加とともに安値となり、結果的には前年並みとなった。
なす	岡山県、高知県を中心に入荷。2月から3月の低温と日照不足、さらに加温用重油の高騰もあって入荷量は減少していたが、4月に入り気温が上昇したことで入荷量は回復し、前年同期を10%上回った。 価格は、入荷増によって前年同期を4%下回った。
トマト	熊本県、福岡県を中心に、三重県からの入荷。4月に入り気温が上昇したことで入荷量は増加し、前年同期を5%上回った。 価格は、入荷増によって前年同期を5%下回った。
ピーマン	宮崎県、高知県を中心に入荷。主力産地では中下旬に入荷が減少したものの、上旬の潤沢な入荷によって、全体の入荷量は前年同期を5%上回った。 価格は、入荷状況が不安定だったものの、需要は安定しており、前年並みの結果となった。
【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)	北海道、鹿児島県を中心に、長崎県からの入荷。鹿児島県、長崎県では上中旬の降雨が影響し、入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は、入荷量が減少したことから単価高で推移し、前年同期を8%上回った。
たまねぎ	長崎県、北海道を中心に、佐賀県、愛知県、兵庫県からの入荷。北海道産の切り上がりが例年より早かったことに加え、長崎県では降雨によって生育が遅れたこともあり、入荷量は前年同期を9%下回った。 価格は、天候不順による品質低下が見られ、引き合いは弱かったものの、安値だった前年同期より21%上回った。
【菌茸類】 生しいたけ	徳島県、和歌山県を中心に、広島県、岡山県からの入荷。各産地ともに3月の低温で入荷が遅れていたが、気温の上昇とともに入荷量は増加し、前年同期を19%上回る結果となった。 価格は、入荷が増加したことに加え、気温が高くなったことで需要があまり伸びず、前年同期を9%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏柑	福岡県を中心に大分県，和歌山県からの入荷。産地での生産面積減少に加えて，全体的に小玉傾向の入荷となったため，入荷量は前年同期を 7 % 下回った。 価格は，小玉傾向の入荷であったことから安値となり，前年同期を 29 % 下回った。
清見オレンジ	和歌山県を中心に，福岡県，大分県，佐賀県，愛媛県からの入荷。他の柑橘類同様に夏場の高温早魃から全体的に小玉傾向となったものの，豊作で入荷量は前年同期を 42 % 上回った。 価格は，豊作による入荷増に加え，小玉傾向での入荷であったことから安値となり，前年同期を 43 % 下回った。
ふ　　じ （サン含む）	青森県からの入荷。産地での在庫量は前年を下回っているものの，ヤケ果等の品質的な問題により前進出荷され，入荷量は前年同期を 4 % 上回った。 価格は，下位等級の入荷が多かったことで，前年同期を 7 % 下回った。
いちご	福岡県，熊本県を中心とする入荷。中心産地では気温が高く天候に恵まれたことで着色が進み，前年同期を 7 % 上回る入荷量となった。 価格は，大玉果中心の入荷であったが品質的な問題はなく，入荷増にも関わらず前年並みで推移した。
アールス	静岡県，高知県を中心に入荷。産地では冬季の作付抑制に加えて，加温用重油の高騰も影響して入荷は減少し，前年同期を 14 % 下回る入荷量となった。 価格は，入荷減に加え，業務筋での需要に支えられたことで，前年同期を 23 % 上回った。
アムス	熊本県からの入荷。作付け減少傾向の品種であることに加えて，作柄も悪く中小玉傾向の入荷となったため，入荷量は前年同期を 26 % 下回った。 価格は，入荷減ながら中小玉傾向での入荷であったため，前年同期を 20 % 下回る結果となった。
大玉スイカ	熊本県を中心とする入荷。熊本県では前年の生育状況が非常に良く入荷増となったことから，4 月の入荷量としては前年同期を 19 % 下回った。 価格は，入荷減でも需要は伸びず，概ね前年並みとなった。